がん遺伝子パネル検査における病理検体について

1. 病理組織診断結果

貴院での病理組織診断結果のコピーを必ず同封してください。（頂いた診断結果は返却いたしません）

1. 未染色スライド標本及びHE染色標本

（1）ホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックより作製した未染色スライド標本は、1症例につき10μの厚さで10枚～15枚（がん遺伝子パネル検査提出用）をご準備ください。

**注意：**薄切後、未染色標本を45℃以上に加温しないでください。また、酸性脱灰液（KCX等）を使用したホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックは避けて下さい。

（2）HE染色標本は未染色スライド標本を指定枚数薄切したのち、HE染色標本用に3μで1枚薄切し染色したものをご準備ください。HE染色が出来ない場合は、HE染色用の未染色スライド標本を3μで2枚ご準備ください。

**注意：**未染色スライド標本で提出される場合は、フロスト部分に「HE用」とお書きください。

（3）切り出し箇所が複数ある場合は、なるべく炎症細胞浸潤や壊死が少なく、変性が少ないviableながん組織の占める割合が大きい組織の未染色スライド標本をご準備ください。

（4）腫瘍含有率は全体の30％以上必要です。

**注意：**腫瘍細胞が30％未満でも検査できることはありますが、腫瘍細胞の割合が少ない手術検体や微小な生検検体では精度が低くなります。当院でもHE標本にて評価致しますが、検査に適さないと判断された場合、検査できない可能性があります。

1. 未染色スライドを準備できない場合

病理検査室がない等の理由で未染色スライド標本を準備できない場合は、ホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックをお借りできましたら、当院にて必要枚数の未染色スライド標本を作製後、ブロックを返却させていただきます。

1. 以下のような組織から作製された標本は、核酸の状態が悪く検査できない可能性があります。

（1）中性緩衝ホルマリン以外の緩衝作用のないホルマリンや酸性ホルマリンで固定された組織

（2）ホルマリン固定時間が長い（48時間を超える）組織

（3）ホルマリン固定パラフィン（FFPE）ブロック作製後、3年以上経過している古い組織

（4）骨転移の組織

（5）過去に受けた放射線治療の照射範囲に含まれている組織

（6）出血・壊死・治療による変性が高度な組織

**検体の準備は、ご紹介いただいた医療機関にお願いしております。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。**

関西医科大学附属病院　病理部